

予 算 要 求 資 料

令和 3 年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：企画調査費

事業名 **新**現代陶芸美術館 空調機器更新事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

現代陶芸美術館 総務部 管理調整係 電話番号：0572-28-3100 (内 103)

E-mail：c21802@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 36,752 千円 (前年度予算額：0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	36,752	0	0	0	0	0	0	0	36,752
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・当館は陶磁器を専門に収集・保管・展示する美術館として建てられた。一般的に文化財や美術作品に対しては劣化を防ぐため、温湿度に注意を払って管理する必要がある。
- ・近年、県民の多様なニーズに応えるため、陶磁器以外のジャンル、日本画や漆工品、金工品なども展示するようになってきた。しかし、これらに適した温湿度をコントロールできるほどの設備が備わっていない。作品の劣化を防止するため、安全な環境の下で保管・展示する必要がある。借用品が大部分であるため、仮に劣化させた場合、県の信用問題にも関わる。
- ・作品展示に際しては、国 (文化庁文化財部美術学芸課) 基準と国宝・重要文化財の公開に関する取扱要綱 (文化庁官裁定 H30.1.29) に基づき適正レベル内 (夏季温度 $26 \pm 2^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $55 \pm 5\%$ 、冬季温度 $22 \pm 2^{\circ}\text{C}$ 、湿度 $55 \pm 5\%$) で、24 時間 365 日空調を稼働させ温湿度管理する必要がある。
- ・令和 2 年度は空調機器更新の設計・計画を行い、これに基づいて令和 3 年度及び令和 4 年度に空調機器更新工事を実施する。

(2) 事業内容

○空調機器更新工事

- ・令和2年度作成の空調機器更新設計・計画に基づき、空調機器の更新を実施する。
- ・対象領域は、美術館の1階収蔵庫、2階・3階ギャラリー、2階エントランス等。
- ・地域産業課にて予算要求の「セラミックパークMINO空気調和機更新工事」と合わせて実施。

(3) 県負担・補助率の考え方

県 10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
工事請負費	36,752	空調機器更新に係る工事費
合計	36,752	

4 参考事項

○後年度の財政負担

令和3年度 36,752千円

令和4年度 55,128千円

合計 91,880千円

※当事業は令和3年度及び令和4年度の2か年度に渡って実施。

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

令和2年度に策定する空調機器更新の設計・計画に基づき、空調機器を更新し、作品の保管・展示に適した温湿度の制御を図る。

近年は、温湿度管理の不如意を理由に、陶磁器以外のジャンルの展示に消極的になったり、不安になったりせざるを得ないこともあったが、空調機器更新を実施し、適切な温湿度管理を図ることにより、県民の多様なニーズに応えた他ジャンルの展覧会を積極的に行うことができる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前	指標の推移		現在値 (前々年度末時点)	目標	達成率

○指標を設定することができない場合の理由

美術館としての設備の機能を確保するものであり、指標を設定することに適していない。

（前年度の取組）

- ・空調設備に関して当時施工に関わった人物や専門業者に相談して、情報収集や方針検討を行った。
- ・温湿度のモニタリングを行い、他の美術館から事例や助言を得た。

（前年度の成果）

- ・セラミックパーク MINO 全体の空調機器更新事業の設計について、地域産業課が入札を行い、設計業者を選定した。これに美術館として作品保全に必要な機能強化事業を上乗せする方式で設計を委託して更新事業の計画を作成している。
- ・関係者や専門業者、他の美術館から情報提供や助言を受けて、方針を検討している。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い	
(評価) ○	県民をはじめとする来館者にとって重要な美術館活動は展示である。多様なニーズに応えるため、陶磁器以外のジャンルの作品についても温湿度制御を行いながら展覧会を開催することが求められる。適切な環境を作り出すための空調機器更新は、美術館活動の展開にとって重要、不可欠である。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) △	現在は専門業者に委託し、設計・計画を策定中である。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある	
(評価) ○	セラミックパーク MINO 全体の空調機器更新事業の設計について、地域産業課が入札により設計業者を選定して委託した。これに上乗せる方式で設計業者と協議を重ねて作成した計画に基づき、更新事業を進めれば効率化は図れると考えられる。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項	
・ 不安定な予算状況では、専門業者による必要な調査を行い、更新の設計・計画を作成し、工事を実施する適切な段階を踏むことが困難になり、空調機器更新を順次進めることができなくなる。そのため、継続的な予算措置の見直しを持てることが課題としてある。	
・ 現代陶芸美術館の事業を継続する限り、安全な環境で展示を常に展開し、作品を保管することができるレベルの空調機器を備える必要がある。	

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

館が県の重要な地場産業と連携し、現代の陶芸文化を発信していくためには、作品収集活動、保管活動、展示活動を支える設備・備品を整備することが不可欠である。当館の今後の展開のためにも、本事業は継続すべき事業である。

いずれは空調機器のメンテナンス、修理等も必要であり、その方策も検討していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課

【〇〇課】

組み合わせる理由や期待する効果 など